第４回　松田町総合戦略審議会　議事録

１．日　時　平成 28 年 1 月 22 日（金）10:00～12:00
２．場　所　役場４階会議室
３．出席者　委　員：別紙「委員等名簿」のとおり（久郷委員、村山委員欠席）
　　町　側：別紙「委員等名簿」のとおり（町長、参事ほか）
　　事務局：政策推進課（吉田課長、椎野課長補佐、柳澤係長、矢口主査）
４．配付資料
・次第
・松田町まち・ひと・しごと創生　人口ビジョン・総合戦略案（資料１）
・参考資料：第３回　松田町総合戦略審議会議事録

【概要】
司会進行（吉田課長）
１．開　会
２．会長あいさつ
３．町長あいさつ
４．議　事
(1)　松田町人口ビジョン（案）について
・事務局（政策推進課）より、前回（9 月 16 日）の総合戦略審議会の開催以後での計画の策定に向けた動き等についての説明を行う。

高須　委員：資料 P31 の合計特殊出生率を将来的に上げていくなかで、社会減の抑制がポイントとなる。
総合戦略で主に取り組んでいくことは、子育てしやすい環境をつくり、人口流出を抑えていくということでよいか。

事　務　局：合計特殊出生率は現在の 1.09 を上げていき、2040 年（平成 52 年）で 1.60 を、2060 年（平成 72 年）までに 2.07 を目指していきたい。
社会減少の抑制は本町よりも早く収束していく予定の市町もある。
P31 はあくまでも一つの目標で、現状、年間 55 戸の新築動向もあり、若い世代の定住化を図るなかで前倒していく心づもりでいきたい。
今回提示した人口ビジョン（案）については、これまでの当審議会の資料を基に整理したものである。

古舘　会長：将来人口目標 10,000 人をどのように達成するか。そもそも 10,000 人の規模適性についてどのように考えているのか。

事　務　局：当町の人口は、60 年前には既に 10,000 人に達した歴史があり、立地から交通に関して相当の優位性があること、また、これまでもその規模を踏まえてインフラ整備を進めてきたことからの設定である。

古舘　会長：人口ビジョンと総合戦略のつながりを明瞭にするため、将来人口目標の達成に向けたポイント３点を明示して、総合戦略で取り組んでいくものとしている。

(2)　松田町総合戦略（案）について

・事務局（政策推進課）より、前回（第３回）の議事録の要旨についての説明を行う。

・松田町総合戦略（案）についての説明を行う。

高須　委員：ＫＰＩについては、ＰＤＣＡによる評価・検証をしていくこととなるが、今回資料では別に数値目標が掲げられている。例えば商工業の販売・出荷額があるが、ＫＰＩの設定で見られるのではないか。
また、ＫＰＩについては項目が多く、高い目標設定のものも見受けられる。絞り込むことも大事ではないか。
また、町としての積極的な取り組みを行っていることを示すことも肝要である。

古舘　会長：数値目標はＫＰＩなのか。

事　務　局：数値目標はＫＰＩとは違い、各柱の目標として設定した。
参考までに、商工業の販売・出荷額は、総合計画（新まちづくりアクションプログラム）で位置付けをしているもの。

西田　委員　数値目標を達成するためのＫＰＩで良いのか。
例えば、P38 の「定住・移住相談件数」をＫＰＩで設定しているが、定住・移住に対する相談のみでよいのか。アウトカムの考え方になっていない。成果につながるような項目とすべきではないか。

事　務　局：確かに最終的には相談から定住につながらなければ意味の無いものとなってしまうので、見直したい。

宇佐美委員：総合戦略を単純に他市町と比較するのは難しい。
本戦略においては、子育て世帯への支援が重視されているが、出産に対する項目を増やしていくのも一つである。

西田　委員：松田町が子育てに力を入れているのであれば、他市町との違いをもっと押し出していく必要があるのではないか。松田町で子育てをしたいと思っていただくことへの取組みが見えていないように捉えている。

事　務　局：他市町との比較は、手法で難しい点もある。松田町の特徴として示していければとは考えている。

古舘　会長：アピールしたいことを、見える化・ポイント化することは大切である。
松田町として何をしていくのかをハッキリと示していくべきである。

松本　委員：自分の経験の中で、子育て（学童保育等）を基準に住居の検討を行ったこともあるので、示すこと（ＰＲ）は大切である。

高須　委員：P45 の商工業では、金融機関として連携した取り組みに係る記載がある。
中小企業や個人事業主が地域で頑張ることで雇用が生まれ、定住につながるシナリオと捉えている。

飯野　委員：足柄ブランド・松田ブランドは理解できるが、位置付けを明確にするべきではないか。
また、視点として、松田町は松田地区と寄地区があるので、地域で取り組むものの区分が必要ではないかと思う。

事　務　局：松田ブランドは町の特産品等のブランド化を考えている。一方で、足柄ブランドは「足柄」のネームバリューを足柄上地区１市５町で連携して広めて、ローカルブランディング（足柄を知ってもらう）を行う方向で考えている。

古舘　会長：松田・寄の２つの地域があることが町の特性でもあるので、うまく活用していくべきである。

宇佐美委員：人口や社会が転換期を迎えているなかで、リノベーションしていく視点を踏まえて取り組んでいくことは重要である。
将来的に成長だけではなく、人口減少をどのように抑えていくかを目指していくべきではないのか。

松本　委員：P41 のＫＰＩ（駅の乗降者数）を検討されるのであれば、小田急電鉄としては乗車人員の定期・定期外収入別に区分したデータを保有している。各種のまつりなどは定期外収入、町民等の一般的な利用（通勤・通学）は定期収入となる。
ＫＰＩへの数値的提供は検討の余地がある。

宇佐美委員：観光面で広域的に取り組む「足柄ブランド」は期待している。また、強調もしていただきたい。

古舘　会長：ＫＰＩとしてのご意見は、いかがでしょうか。
P38 の相談件数や P41 の英検取得者数は削除してもよいと思われる。

事　務　局：ＫＰＩについては、次回審議会の資料送付前に確認させて頂きたいと考えている。

古舘　会長：本日の意見を踏まえ、ポイントを明瞭にして強調すべきところは強調していただきたい。

事　務　局：今後、庁内的な議論や、加速化交付金の取得にあわせて、総合戦略に係る記載内容に修正があり得ることを了解して頂きたい。
また、「おもてなし」をどこまで表現として示していくことも含めて検討する。

古舘　会長：次回の審議会については、２月中～下旬を予定する。
本日の配布資料を基に修正・変更案として作成する。

(3)　その他

特になし

５．閉　会